

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長  
(公印省略)

平成23年度病害虫発生予報第10号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量
ブロッコリー	黒腐病 花蕾腐敗病 べと病 菌核病	並 やや少 やや少 やや少
レタス	灰色かび病 <b>菌核病</b> <b>腐敗病</b> <b>斑点細菌病</b> <b>モザイク病</b> <b>(えそ輪紋症状含む)</b> ナモグリバエ	並 <b>やや多</b> <b>やや多</b> <b>やや多</b> <b>やや多</b> やや少
タマネギ、ニンニク	<b>ネギアザミウマ</b>	<b>やや多</b>
野菜、花きの 共通害虫	アブラムシ類	並

**太文字の病害虫**：向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病害虫を示す。

\*予報根拠中の記号

- (+)：発生量を多くする要因
- (-)：発生量を少なくする要因
- (±)：発生量が平年並になる要因

# 平成23年度 病害虫発生予報 第10号(2月)

## A. 野菜、花きの病害虫

### ーブロッコリーー

#### 1. 黒腐病

予 想 発生量 : 並

- 根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりの発生量は過去7か年と比べてやや多かった。(+)  
(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(－)

- 対 策 (1) 薬剤散布は、予防的に実施し、初期感染を防ぐことによって散布回数を減らすよう努める。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除を徹底する。  
(2) 降雨や寒波に伴う強風の後などは、できるだけ速やかに薬剤防除を行う。  
(3) 発生が多い圃場では発蕾までに防除を徹底する。

#### 2. 花蕾腐敗病

予 想 発生量 : やや少

- 根 拠 (1) 1月下旬の発生は認めなかった。(－)  
(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(－)

- 対 策 (1) 降霜などによって発病が助長されるので、低温が予想される場合には防霜対策を施す。  
(2) 黒腐病の防除など細菌病防除を行う。  
(3) 薬剤防除は予防的に実施し、銅剤を使用する場合には発蕾期以降の散布は避ける。

#### 3. ベと病

予 想 発生量 : やや少

- 根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりの発生量は平年並であった。(±)  
(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(－)

- 対 策 (1) 圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。  
(2) 降雨後や曇雨天で多湿状態が続くときは薬剤防除を行う。  
(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。  
(4) 発病株は放置せずに抜き取り適正に処分する。

#### 4. 菌核病

予 想 発生量 : やや少

- 根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりの発生量は平年並であった。(±)  
(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(－)

- 対 策 (1) 発病株は早期に見出し、抜き取って適正に処分する。  
(2) 発生が多い圃場には連作しない。  
(3) 薬剤散布は株元を中心に、丁寧に行う。

## 1. 灰色かび病

予 想 発生量 : 並

根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりでの発生量はやや少なく、3～4月どりでは平年並であった。(±)

(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(－)

対 策 (1) 発病株は放置せずに抜き取り適正に処分する。

(2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。

(3) 定植7～10日後と25～35日後を基幹の防除時期とするが、トンネル被覆後は薬剤がかかりにくくなるので、散布むらに注意して薬剤を散布する。

(4) 薬剤散布は株元を中心に、丁寧に行う。

(5) 苗床からの持ち込みも多いので、苗床での薬剤防除を実施する。

(6) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 2. 菌核病

予 想 発生量 : **やや多**

根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりでの発生量はやや多く、3～4月どりでは過去9か年と比べてやや多かった。(＋)

(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(－)

対 策 (1) 発病株は放置せずに抜き取り適正に処分する。

(2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。

(3) 取り遅れにならないように適期収穫を心がける。

(4) 定植7～10日後と25～35日後を基幹の防除時期とするが、トンネル被覆後は薬剤がかかりにくくなるので、散布むらに注意して薬剤を散布する。

(5) 薬剤散布は株元を中心に、丁寧に行う。

(6) 苗床からの持ち込みも多いので、苗床での薬剤防除を実施する。

(7) 灰色かび病の薬剤耐性菌の発達回避のため、同一系統薬剤は連用しない。

## 3. 腐敗病

予 想 発生量 : **やや多**

根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりでの発生量はやや多く、3～4月どりでは発生を認めなかった。(＋)

(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(±)

対 策 (1) 圃場の排水をよくするとともに、トンネル内部が過湿にならないようにする。

(2) 凍害にあった後は速やかに薬剤散布を行う。

## 4. 斑点細菌病

予 想 発生量 : **やや多**

根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりでの発生量はやや多く、3～4月どりでは過去9か年と比べてやや多かった。(＋)

(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(±)

- 対 策 (1) 温度格差が大きいと発病が助長されるので、夜温が低い場合には日中温度が上がりすぎないように、除湿をかねてこまめに換気する。
- (2) 育苗は風当りの少ないところで行い、できるだけ傷をつけないように管理するとともに、軟弱徒長にならないよう注意する。
- (3) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。
- (4) 強風を伴う降雨が続いた後には薬剤防除を行う。

## 5. モザイク病（えそ輪紋症状を含む）

予 想 発生量 : **やや多**

- 根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりでの発生量は平年並、3～4月どりでは過去9か年と比べてやや多かった。(+)
- (2) 1月下旬のアブラムシ類の発生量は1～2月どりでの発生量はやや少なく、3～4月どりでは発生を認めなかった。(－)
- (3) 2月の気象は、平年と比較して気温が低くなる予報である。(＋)

- 対 策 (1) モザイク病の病原体には、モザイク症状を起こすレタスマザイクウイルス及びキュウリモザイクウイルス（CMV）のサブグループⅠとえそ輪紋症状を起こすCMVのサブグループⅡがある。CMVのサブグループⅡによって発生するえそ輪紋症状は、低温期に増加・多発する傾向があり、結球内部まで褐色のえそ輪紋を生じさせることがあるので、出荷時の選別を徹底する。
- (2) 今後定植がおこなわれる春どりレタスの伝染源となるおそれがあるので、発病株は見つけ次第抜き取って適正に処分する。
- (3) 苗床は防虫ネットで被覆し、アブラムシ類の飛び込みを防止するとともに、圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
- (4) 定植までには、アブラムシ類に登録のある薬剤をセルトレイ処理する。
- (5) 薬剤防除を行う場合にはアブラムシ類の抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤の連用は避ける。

## 6. ナモグリバエ

予 想 発生量 : **やや少**

- 根 拠 (1) 1月下旬の1～2月どりでの被害発生はやや少なく、3～4月どりでは過去9か年と比べてやや少なかった。(－)
- (2) 2月の気象は、気温が低い予報である。(－)

- 対 策 (1) 苗床は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。
- (2) 定植時には粒剤を施用する。

## －タマネギ、ニンニク－

### 1. ネギアザミウマ

予 想 発生量 : **やや多**

- 根 拠 (1) 1月下旬の早生タマネギでの発生量はやや多かった。(＋)
- (2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か少ない予報である。(±)

- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
- (2) ネギアザミウマの食害痕から病原菌が侵入する場合が見られるので、葉に食害が認められる場合は早期に防除を行う。
- (3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－野菜、花きの共通害虫－

1. アブラムシ類

予 想 対象作物： 野菜、花き類全般  
発生量： 並

根 拠 (1) 1月下旬のブロッコリーでの発生量はやや多く(+)、レタスでの1～2月  
どりではやや少なく、3～4月どりでは発生を認めなかった。(－)  
(2) 2月の気象は、平年に比べ晴れの日が多く、気温が低く、降水量が並か  
少ない予報である。(±)

対 策 (1) 施設栽培やトンネル栽培等では、今後増殖するおそれがあるので注意する。  
(2) モザイク病の初期感染を防ぐため、苗床での防除を徹底する。  
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

農薬の取り扱いには、充分注意しましょう！

【中毒110番・一般向け】

つくば 029-852-9999 (365日対応、午前9時～午後9時)

大 阪 072-727-2499 (365日24時間対応)

財団法人日本中毒情報センター <http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf>

**農薬はラベルをよく読んで使用しましょう**

【事務所移転のお知らせ】

病害虫防除所は、農業試験場の移転に伴い昨年10月1日から次のとおり事務所を移転しました。

住所 〒761-2306 香川県綾歌郡綾川町北1534-1  
TEL 087-814-7317 FAX 087-814-7318

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>

メールアドレス: [byogaichuboj@pref.kagawa.lg.jp](mailto:byogaichuboj@pref.kagawa.lg.jp)